

平成 26 年度教職大学院派遣研修報告書

派遣者番号	26K03	氏名	井上 大輔
研究主題 —副主題—	小学校における情報発信と保護者からの信頼との関係 —学級通信の現状と課題—		
所属校	荒川区立第九峡田小学校	派遣先	創価大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>現代は情報化社会である。学校や教員は、子供・保護者・地域に対して日々何らかの情報を発信している。そして、特に保護者・地域は、その情報によって学校や教員に少なからず信頼を寄せている。さらに、今日では開かれた学校づくりが求められ、学校の説明責任が問われる機会も多くなりつつある。また一方では、子供のプライバシーや人権的配慮が重視され、各学校で個人の特定がなされないための体制を整えている傾向にある。このような状況の中で保護者・地域からの信頼をどのように獲得していくのかは、学校にとって今後の大きな課題であると考え。</p> <p>本研究は情報発信の中でも、特に学級経営に密着した学級通信に着目し、小学校における情報発信と保護者からの信頼との関係を研究主題に設定した。問題の所在及び研究の目的として、それぞれ教員側と保護者側の立場を考えながら、研究を進めていった。</p> <p>1 問題の所在</p> <p>(1) 教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級通信を発行する義務はなく、教育効果についても不透明</li> <li>・形式は自由であり、内容も発行頻度も担任によって千差万別</li> </ul> <p>(2) 保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校への関心に差異が激しい。</li> <li>・学級通信の内容が保護者の期待する内容になっていない。</li> </ul> <p>2 研究の目的</p> <p>(1) 教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不透明な学級通信の現状を明らかにする。</li> <li>・現状から教員の学級通信の形式に関する傾向性をつかんでゆく。</li> </ul> <p>(2) 保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に子供や担任に対してどのような情報を望んでいるかを探る。</li> </ul> <p>その上で、学級通信が学校と保護者との信頼関係を築くためには、どう在るべきかを分析し、その改善策を探索することが本研究の目的である。</p>
II 研究の方法	<p>目的を達成するための方法としては、二つの実証研究を実施した。</p> <p>1 第1研究 首都圏にある公立小学校の現職教員 216 名に対する質問紙調査 回収したアンケートを記述統計で分析</p> <p>(1) 質問紙調査の概要 7月中旬～10月下旬に実施、A4両面印刷、留め置き法</p> <p>(2) 主な質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級通信に対する認識</li> <li>・学級通信の発行有無（行動）</li> <li>・学級通信の発行有無に対する理由</li> <li>・保護者の信頼につながると思われる実践や、教員としての資質の重要度など</li> </ul> <p>2 第2研究 実際に子供を小学校に通わせる2名の保護者へのインタビュー調査 インタビューした内容を概念化し、関係図を作成</p> <p>(1) インタビュー調査の概要 11月7日実施、計70分間、話題としては子供や教員への思いや願い</p> <p>(2) 概念化し、関係図を作成するまでの過程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューした内容を逐語記録にする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストに分け、キーワードを付与して概念化する。</li> <li>・カテゴリーの分類、統合をして関係図を作成する。 (いわゆるグラウンデッド・セオリー・アプローチと言われる質的分析法を用いて分析)</li> </ul>																												
III 研究の結果	<p>1 第1研究</p> <p>(1) 学級通信に対する認識  学級通信の発行はよいことだと思う・・・84.7%  学級通信の発行はよいことだとは思わない・・・0.5%  どちらとも言えない・・・14.8%</p> <p>(2) 学級通信の発行有無  学級通信を発行していない・・・52.8%  学級通信を発行している・・・47.2%</p> <p>(3) 学級通信を発行していない理由、上位2項目(4件法平均値/最大値4)  忙しくて、作る時間がない・・・3.21  学年や学校全体で足並みをそろえないといけない・・・3.02</p> <p>(4) 学級通信発行をしている理由、上位2項目(4件法平均値/最大値4)  子供の頑張りを称賛するため・・・3.67  保護者の理解と信頼を得るため・・・3.58</p> <p>(5) 保護者の信頼につながると思われる教員としての資質の重要度  上位4項目(授業の分かりやすさ、思いやり、生活指導、日々の発言)はいずれも教員からの与える行為によるものであり、教員は与えることで信頼を得ようとする傾向が強い。</p> <p>2 第2研究  我が子と担任に対する保護者の心情の関係図(※簡略化)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>低学年 【不安期】</th> <th>中学年 【自立成長期】</th> <th>高学年 【再構築期】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">我が子へ</td> <td>自然発生的不安</td> <td>自立を促す</td> <td>親離れの懸念</td> </tr> <tr> <td>生活適応の心配</td> <td>全体と個の差</td> <td>自己責任を求める</td> </tr> <tr> <td colspan="3">子供の成長を心から願う</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">担任へ</td> <td>日常生活の配慮</td> <td>自立への指導</td> <td>学校の様子を知りたい</td> </tr> <tr> <td>丁寧な対応</td> <td>一人一人の見取り</td> <td>責任を果たす機会</td> </tr> <tr> <td colspan="3">子供をきちんと見てほしい(受容してほしい)</td> </tr> <tr> <td>学級通信への生かし方</td> <td>確実な伝達事項の徹底</td> <td>個別の取組に対する励まし</td> <td>親子間での話題の共有</td> </tr> </tbody> </table> <p>保護者の思いや願いは、子供の発達段階とともに変化するが、子供の成長を心から願い、我が子をきちんと見てほしいという思いは貫かれている。</p>		低学年 【不安期】	中学年 【自立成長期】	高学年 【再構築期】	我が子へ	自然発生的不安	自立を促す	親離れの懸念	生活適応の心配	全体と個の差	自己責任を求める	子供の成長を心から願う			担任へ	日常生活の配慮	自立への指導	学校の様子を知りたい	丁寧な対応	一人一人の見取り	責任を果たす機会	子供をきちんと見てほしい(受容してほしい)			学級通信への生かし方	確実な伝達事項の徹底	個別の取組に対する励まし	親子間での話題の共有
	低学年 【不安期】	中学年 【自立成長期】	高学年 【再構築期】																										
我が子へ	自然発生的不安	自立を促す	親離れの懸念																										
	生活適応の心配	全体と個の差	自己責任を求める																										
	子供の成長を心から願う																												
担任へ	日常生活の配慮	自立への指導	学校の様子を知りたい																										
	丁寧な対応	一人一人の見取り	責任を果たす機会																										
	子供をきちんと見てほしい(受容してほしい)																												
学級通信への生かし方	確実な伝達事項の徹底	個別の取組に対する励まし	親子間での話題の共有																										
IV 考察	<p>1 学級通信に対する認識と行動が結び付かない要因として、</p> <p>(1) 内的要因・・・教員のパーソナリティ  (2) 外的要因・・・教員を取り巻く環境(仕事量、職場の人間関係など)  これらが複雑に絡み合い、学級通信の発行を抑制している。</p> <p>2 教員と保護者の感覚のズレを解消するために</p> <p>(1) 教員・・・与える(output)傾向が強い。  (2) 保護者・・・受容(input)してほしい。  教員はinputした上でのoutputが必要であり、保護者の信頼を獲得するためには、子供の受容を発信している学級通信が特に有効な手段となる。</p> <p>3 目指すべき学級通信の在り方</p> <p>(1) 子供の姿、声、頑張りをできるだけ多く掲載する。  (2) そのための見取り、子供の受容が日々の実践で行われ、連動している。  (3) 担任からの一方通行ではなく、子供と保護者と教員が紙面を通じて、意見のキャッチボールができています。</p>																												